

水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	平成28年度 /	事業者名	公立大学法人滋賀県立大学 /
補助事業名	琵琶湖水草を材料としたメタン発酵消化液の改質による高付加価値品の開発、およびその実用化に向けた計画策定		
補助事業結果概要	<p>本研究によって、水草のメタン発酵残渣を膜濾過法によって効果的に固液分離できることが明らかになった。発酵残渣中の細菌類もほとんどが濾過されて液分には移行しないことが分かった。ただし、液分残渣中の溶存態リンが膜濾過によって除去されることで、ここで得られた液肥では、微細藻類も葉物野菜も生育が不十分であった。</p> <p>他方、関係各所へのヒアリングから事業化へ向けてのいくつかの問題点を整理することができた。プラント用地の選択には問題点が散見されるが、特に滋賀県との連携が不可欠であることが分かった。家畜飼料のサプリメントとしてクロレラの有用性と採算性が確認され、液肥製造方法の確立が、事業全体の採算性を担保する上で重要であることを再認識できた。</p>		
<p>本年度（令和2年度）の状況</p> <p>・技術開発等の状況を含む</p>	<p>本事業と同様の内容で地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（Satreps）に申請していたプロジェクト「ナイルの源流エチオピア・タナ湖で過剰繁茂する水草バイオマスの管理手法と有効利用プロセスの確立」が採択され、来年度から研究が開始される予定である。本プロジェクトはエチオピアのタナ湖で過剰繁茂して社会問題となっているホテイアオイを持続的に利用しつつ、メタン発酵でエネルギーを取り出し、発酵消化液を使って微細藻類（スピルリナ）や野菜など有価物を生産することを目指している。本年度は、その準備として、エチオピア側研究者との研究の打ち合わせなどを行った。</p>		
備考			